

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	愛媛県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	今治市立立花小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	2	2	2	3	3	3	18	28
児童数	95	77	76	77	88	86	9	508	

研究の概要

1. 研究主題

算数科における基礎・基本の確かな定着を図るための手だて
-----------------------------

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>全学年 算数<br/>児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため</li> </ul> |
|---|

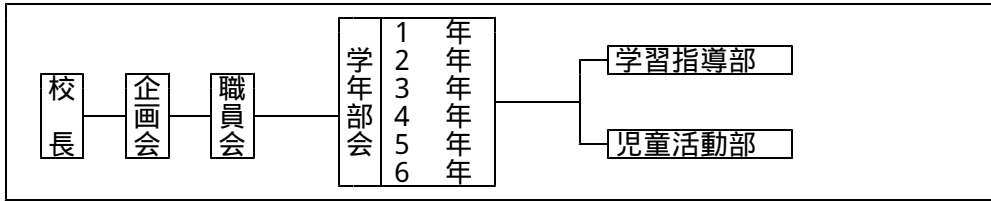
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 児童の意欲を大切にしたい習熟度別少人数学習の指導体制、指導方法の工夫</p> <p>研究の見通し(仮説) 習熟度に応じた少人数学習の指導法を工夫し、一人一人の実態に応じたよりきめ細やかな指導を行えば、児童の学習意欲を高めることができるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>課題選択型の習熟度別少人数学習の在り方</li> <li>自己評価・自己診断を取り入れた習熟度別少人数学習の在り方</li> </ul>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 主体的・意欲的な学習態度を育成する習熟度別少人数学習の指導計画の工夫</p> <p>研究の見通し(仮説) 児童が学習の過程をより実感し、意識できるような指導計画を工夫すれば、主体的・意欲的な学習態度を育成できるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童の「気づき」を大切にしたい指導計画(単元・授業)の在り方</li> <li>習熟度別少人数学習を効果的に位置付ける指導過程の在り方</li> <li>個に応じた発展的な学習や補充的な学習の在り方</li> </ul>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 児童の学習意欲を高めるための評価の工夫</p> <p>研究の見通し(仮説) 指導と評価の一体化を図り、指導に生かす評価を工夫すれば、児童の成就感を一層高めることができるのではないかと。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間を見通した評価とそれを基にした効果的な指導の在り方</li> <li>評価規準に基づき、児童が学習状況を把握できる自己評価の在り方</li> <li>評価に基づく指導の手だての在り方</li> </ul>
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

教師・児童ともに、習熟の度合いに配慮した学習の進め方に次第に慣れてきて、落ち着いた学習ができるようになった。

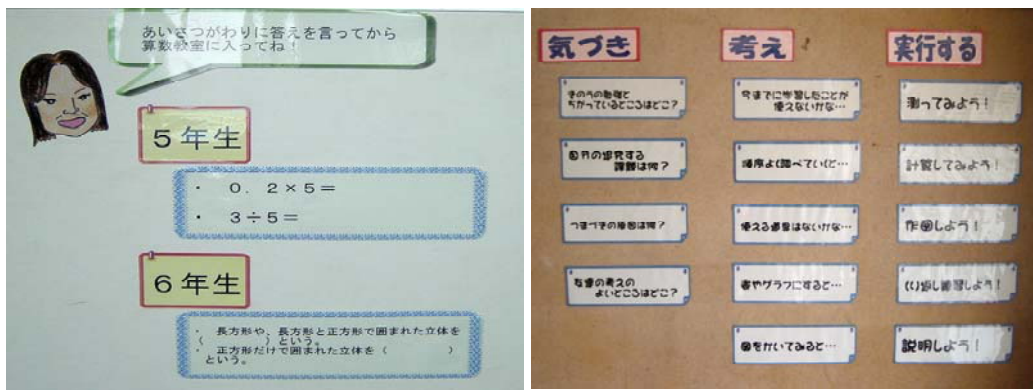
算数専科教員と学級担任が、互いの専門性を発揮しながら協力していく体制のもと、単元指導計画を立てたり、日々の打ち合わせや相談をしたりすること自体が研修になっている。

教師主導型の学習になりがちだった従来に比べ、児童の主体性・自主性が育ちつつある。例えば、学習課題が終わった後、次に何をしたらよいか自分で判断し取り組む姿や、昼休みや放課後進んで算数教室に自主勉強や質問をしに来る姿が見られるようになった。

児童がコースを選択することで、自分の算数の学力の様子はどうなっているのだろう、どこまで学力がついているのだろうと考えるきっかけとなり、自分の学力を分析的に見る目が育っていると思われる。

高学年で実施した観点別のコース分けでは、児童の学習意欲を高める効果が見られた。児童の立場から見れば、あまり、優越感・劣等感を意識せずに取り組めることや、コースも流動的に動ける自由さ、自分が学習の仕方を選択しているという自覚によるものと思われる。

低中高学年各算数教室の環境が、少しずつ充実してきた。今後も、3つの教室の系統性・連携を図りながら、かつ創意工夫を生かして、算数学習のキーステーションとなるような算数教室をつくっていきたい。



## 2. 今後の課題

- ・ 評価規準に照らし合わせた学習教材の開発とその評価の仕方を研究していきたい。
- ・ 児童の学習意欲を高めるための評価の工夫をさらに研究していきたい。
- ・ 学期・あるいは年間というスパンで見て、どの程度の割合で習熟度別学習を取り入れるのがよいか、さらにその中の観点別習熟度学習はどのくらい扱うかを検討し、カリキュラムを考えていきたい。
- ・ 教科の本質や理論面からの裏付けを確実にした研究実践をしていきたい。

### 学力等把握のための学校としての取組

- ・ 単元末に行う学力把握のための診断テスト
- ・ 学年末に行う学力把握のための標準学力調査（5年生抽出）
- ・ 学年末に行う児童の意識調査

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成15年度学力向上フロンティア事業第1回「今治管内地区協議会」開催  
日時 平成15年6月12日（木）  
場所 今治市立立花小学校  
対象 今治管内地区協議会委員  
今治市内各小中学校算数主任  
今治市内各小中学校教員（参加希望者）

主な内容  
研究授業 第5学年 算数科 四角形（習熟の程度に応じた学習）  
研究協議  
地区協議会  
・ フロンティアスクールの取組について研究推進計画及び経過報告  
・ 意見交換  
・ 指導助言 愛媛県教育委員会義務教育課指導主事

平成15年度今治・越智 算数・数学夏季研究会での研究成果発表  
日時 平成15年7月30日（水）  
場所 今治地場産業振興センター  
対象 今治・越智 算数・数学同好会

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有                       無